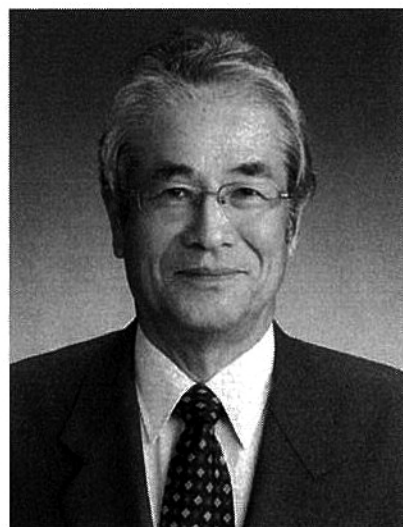


# リレー随筆 ⑦9

## 子どもは、教えれば変わる —礼儀正しさのDNAはまだ残っている—

認定NPO法人マナーキッズ®プロジェクト

理事長 田中日出男



田中 日出男氏

子ども・若者の状況がおかしい。多くの人がそう感じるようになって、ずいぶん時間がたつ。挨拶や礼儀など人間としての基本的なマナーやルールに欠ける。私的空間と公的空間のけじめ感覚を持ち合わせない。傷つくのが怖いから他人と深く交わろうとしない。学びを含めて何事にも意欲がわかない。その上、体力や運動能力の面でもひ弱になった。そんな子どもが増えつつあることを様々なデータは示している。

認定NPO法人マナーキッズプロジェクトは、以上のような子ども・若者状況の是正に向けて、その一助にな

ることを設立の趣旨に据えている。具体的には、スポーツ・文化など子どもたちの各種活動を通じて、日本の伝統的な礼法を体験する。保護者に対して、家庭におけるマナーの躰などを講習することによって、挨拶、礼儀作法などのマナーを習得して「体」「徳」「知」バランスの取れた人材育成に寄与していきたいと考えている。

今までに、テニス、サッカー、ラグビー、野球、バスケット、柔道、相撲、音楽他で合計約四万八千人の幼稚園児・小学生児童が参加した。

### ■マナーキッズ教室の内容

(1) 小笠原流礼法鈴木万亀子総師範による正しいお辞儀、挨拶の指導

初めに生徒に自己紹介をしてもらう。全国どこでも、姿勢は悪く、小さい声で自己紹介する。その後、小笠原流礼法鈴木万亀子総師範による正しいお辞儀・挨拶の仕方のご指導がある。姿勢を正して、お腹に力を入れて、胸にいっぱい空気を入れて、「よろしくお願

いします」と言ってからお辞儀をする。お辞儀は、頭を下げるのではなく。腰を折って、心を下げる。お辞儀が終わったら、やさしい顔で相手の顔を見る。これを残心という。指導してもらったら、同様な方法で「ありがとうございますました」を言ってからお辞儀をする。ショートテニスをやりながら二時限（九十分）の間、「よろしくお願います」「ありがとうございますました」と繰り返し「あいさつ」の練習を行う。子どもは十分毎に、姿勢がよくなり、声も大きくなり、変化していく。

## (2) 保護者への講話

### 鈴木総師範の講話「家庭内の躰」

まず、「朝起きて、誰が一番先に声をかけますか。」という質問を親にされる。殆どの場合、母親が、「○○ちゃんおはよう、すぐに××を用意しなさい。」とか言う。そうではなくて、挨拶というのは、目下から目上にするもので、子どもから「おはようございます。」と敬語で言わせる。

「朝に見て、昼には呼びて、夜触れて確かめおかねば、子は消ゆるもの」と昔の人は言っていたとのこと。まず、朝は子どもの顔を見て、調子を点検する必要があるという話をされる。次に、「食卓では、子どもの髪をさわらないこと。」という話をされる。今、電車の中で、食事をしたり、化粧をしたりする風景が当たり前のようになっているが、公的な空間と私的な空間の区別がつかなくなっている原因も、そういうところにあるようである。

また、子どもを叱る際には、親は上座、子どもは下座ですれば効果があがるとのこと。更に、学校へ行く子を見送る時も、玄関を出て、見送ってあげて下さいと言われる。五、六歩歩いたところで、「行ってらっしゃい、気をつけて」と声をかける。子どもは、まあいい、あたたかいものを抱いて出かけて一日中その気持ちが持続するとのこと。そういう愛情豊かに育ったお子さんは、ストレスに強い、いじめにあっても耐えることが出来るとのことである。



姿勢を正しく、相手の目を見ながら元気よく大きな声で自己紹介

### ■ マナーキッズプロジェクトを

#### 立ち上げた「きっかけ」

何故、マナーキッズプロジェクトをスタートさせたかであるが、平成八年頃、会社勤めをしていた私は、人事労務の仕事をしていた関係から、従業員

同士が挨拶しなくなった事に問題意識を持ち、「挨拶運動」を始めた。「挨拶通り」を作り、そこでは「明るく、いきいき、さわやかに、常に挨拶しよう」と、幼稚園でやるようなことを会社でやる必要があった。どうしてかなあと思っていたところ、近くの小学校の校門で、先生と生徒が挨拶をせずに校門に入る姿を目撃して、小学校で挨拶する習慣がないのが原因ではないかと思つた。そこで、母校の早稲田大学庭球部OBに働きかけ、早稲田大学庭球部小学生テニス教室を開始したのがきっかけである。

リタイア後、縁があり平成十七年四月に財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクト設立に携わり、平成十九年六月にNPO法人マナーキッズプロジェクトを有志で設立した。

## ■ 開催小学校からの反響

(1) 挨拶する児童の比率がアップ  
(東京都杉並区立三谷小学校)

子どもの「以前から挨拶している」割合は、平均三十六%であったが、「よくするようになった」「少しするようになった」という挨拶の質が向上した子どもの割合が平均五十四%と合計で九十%に達した。

## (2) 教師の意識・指導が変わつた

(青森県八戸市立新井田小学校)

・子どもの様子を見てすぐしかるのではなく、「マナーはどうかな?」「迷惑をかけていないかな?」というキーワードを子どもに投げかけて、子どもに考えさせるようになった。

・自分自身も、「子どもの前できちんとした振る舞いをしなくては」と意識するようになった。

・全校生徒が、鈴木総師範のお話を聞いたので、全校一貫した指導ができるようになった。「鈴木先生に教えて頂いた立ち方をしてごらん」というだけで、六百三十八人の子ども達が、凛とした姿で立てるようになった。

## (3) 子どもの意識が変わつた。

(青森県八戸市立新井田小学校)

・授業の始まりと終わりの挨拶では、教師の目を見て挨拶ができるようになった。

・朝食をしっかりと食べるようになった。  
・地域や校内ですれ違う時の挨拶がともよい状態になった。

・明るい顔、場にあつた声・腰の折り方等本当によく変わった。



小笠原流礼法の鈴木万亀子総師範により正しいお辞儀を練習

(4) 品川区が全国で初めて予算化

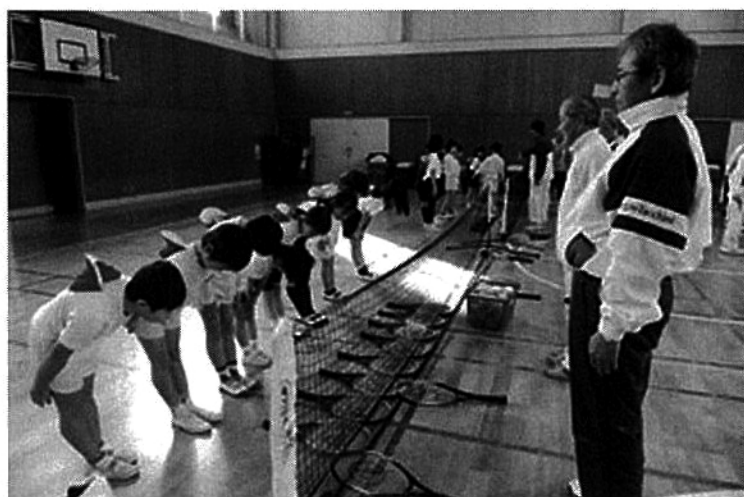
品川区が全国で初めて予算化し、「市民科」授業として採用した。若月教育長は、次のように述べられている。

「今のマナーの悪さの根本原因は、戦後一貫して取り進めてきた我が国の教育方針に根ざすものと言えます。教育にはいくつかの原理があります。その一つに『教育は他律による自律への促し』という原理があります。最終的には自律を目指すのです。今の現場の教員は『他律』そのものにアレルギーを起こします。『子どもの持っている可能性を：』すでに形而上学的なのです。『子どもの意欲を大事にしよう』『子どもの発想を大事にしよう』『子どもの目線に立って』、これらは否定のしようがありません。

しかしそれに付随する具体的な戦略、方略、手段、方法を聞かれたとき、はたと現場は立ち止まってしまいます。そしてただ単に言葉のやり取りで終わってしまいます。その結果が今の子どもたちの公共心の低下、道徳性の低下に

つながっているのです。

このことを全く意に返さないで相変わらず『命を大切にしよう』『思いやりを大事にしよう』など、この世の中に通用しないような物語の話を子どもたちに読ませる。それはそれで悪いとは言いませんが、重要なことはそれを実現させるにはどうすればいいかということなのです。



「よろしくお願いします」「ありがとうございます」と繰り返し挨拶

教育における他律による自律を考えたとき、マナーキッズの皆さんがやっておられるテニスならテニスを材料にしてマナーを教える、これはある意味では他律なのです。このような具体的な行動を通して子どもたちにマナーや礼儀を自然な形で伝えていく、こういったものを基本に置かなければ、いくら尊く気高く美しく涙あふれるお話しを子どもたちが教室で聞いても、何のリアリティーもありません。」



修了証書授与では、しっかり相手の目を見て「ありがとうございます」

(5) マナーキッズプロジェクト研究  
(筑波大学大学院人間総合科学研究科  
大森 肇准教授)

受講した子ども達は、全員がプログラムの前後で顕著な変化が見られることから、子ども達の変容を客観的に捉える事が研究の目的。心理的な気分尺度測定の結果「マナーキッズ教室は子ども達の感情を改善する」ことが分かった。「混乱・緊張・不安など」のネガティブな指標は低下、ポジティブな指標「活気」は上昇する中で、日本の伝統的な礼法を取得することが、大きな成果を挙げている一因と考えられる。

■「マナーコミュニティ®」市町村募集中、山口県からの発信を期待

子どもは、「子どもは教えれば変わる」「礼儀正しさのDNAは残っている」と確信している。課題は、持続できるような、家庭・学校・地域社会のフォローが不可欠である。「マナーコミュニティ®」商標登録取得を契機に、町あげて「挨拶運動」(大都市では、一中学

校学区から)を展開するモデル市町村を募集中である。

我々の活動は、「太平洋のゴミ拾い」と言われているが、「琵琶湖のゴミ拾い」になるためにベストを尽くしたい。日本の革新を導いた山口県からの発信を期待します。



教室の最後に、指導者全員に目を見て、お礼の握手

【プロフィール】

田中日出男(たなか ひでお)

認定NPO法人マナーキッズ

プロジェクト理事長

平成八年、同プロジェクトのきっかけとなった、早稲田大学庭球部小学生テニス教室を開始。三菱化学株式会社常務取締役、江本工業株式会社取締役社長を経て、平成十六年四月、財団法人日本テニス協会マナーキッズプロジェクトの実験を開始。平成一七年四月、同プロジェクトディレクター。平成十九年六月からNPO法人マナーキッズプロジェクト理事長、インパクトコンサルティング顧問。兵庫県出身。

○マナーキッズプロジェクトに関する連絡先

〒166-0002

東京都杉並区高円寺北三ー二十二ー三

デルコホームズ四階

☎03(3339)6535

URL:<http://www.mannerkids.or.jp/>